

柴田青曲 しげふく 隨筆家、俳人。明治二十年九月一日東京生れ、昭和

四十二年八月二十一日没（二八九七—一九六六）。本名泰助。筆名若夫、大國

極融、坂上冬樹、大井泰介、大森多介、大森泰、大野古白、志美全妻、

懸瓢生、摩大嶺、比野智雄、深山繁、瀧大星、濱野昌吾、片野亨、獨

脚仙、秦寒京、藤野長房、雨森孤屋、關守人等。恩成中學校中退。大

正七年ホトトギス発行所に入り編輯等に従事、十一年嶋田青峰主宰誌

『土上』同人、昭和八年政教社入社、十年俳誌『俳』創刊主宰。

著書『西鶴輪講好色一代女』(共著・三田村高魚編、巻の一・昭和二年七

月十五日、巻の二・九月十一日、巻の三・十月五日春陽堂)、『わが

草』(蔵香取秀貞檀堂共選、昭和四年四月二日子規庵歌會)、『俳句讀本』
寒川陽光

(嶋田青峰名義、昭和五年一月、千一百富士書房)、『芭蕉名句評釋』

(同、昭和九年十一月五日非凡閣「俳句評釋選集」)、『子規・紅葉

・鏡雨』(嶋田青峰名義、昭和十年九月十一日言海書房)、『芭蕉言

行録』(昭和十五年一月十五日三省堂)、『蕉門の人々』(昭和十五

年十一月十五日三省堂)、『日本人の笑・文壇篇』(池田孝次郎、森鉄二共著、

昭和十七年一月二十一日三省堂)、『子規居士』(昭和十七年二月五

日三省堂)、『古酒初酒一われら読書の記』(森鉄二共著、昭和十

七年十月十日成史書院)、櫻井亞石著『亞石句集』(編、昭和十八年

十月十七日櫻井彌榮社刊)、『古句句を觀る』(昭和十八年十一月十五

日七文書院)、『書物』(森鉄二共著、昭和十九年二月二十日白揚

社)、『明治の話題』(昭和二十七年九月十日青鞋房)、『明治風物

誌』(昭和四十六年十一月十五日有峰書店)、『日本人の笑』(池田

孝次郎、森鉄二共著、平成二年十月七日講談社「講談社学術文庫」)等。